HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	資料
Author(s)	深瀬, 清
Citation	季刊農業経営研究, 2, 12-12
Issue Date	1956-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36242
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_12.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

策が，今日の過剰生産に責任があることを指摘された。

学会3日目は午後の「経済諸関係の計測（エスティメーション）」なる計量経済学会との合同部会にでかける。

第1番目の報告は，シカゴ大学のマーク・ナーラブ氏の「2, 3農産物の需要弾力性の計測」というのである。氏は棉，小麦，玉蜀黍（1909～32）につき、予想価格に対する作付面積の増減ではかつた。供給の弾力性を計算して示した。そして，これら農作物の需要の弾力性が低いのは，農家が過去の価格（前年の価格）で作付を伸縮するのではなく，将来の予想価格で伸縮するためであると説明した。従つて，予想係数を1とおかないで計算すれば弾力性は充分大きくなつて現われることを示し，価格政策の重要性，すなわち，確定将来価格に対し農家はよくre-actすることを指摘した。

ここにいう予想係数とは，constant paramater 予想係数(β)＝

$$\frac{(\text{今年の予想価格})-(\text{昨年の予想価格})}{(\text{昨年の実際価格})-(\text{昨年の予想価格})}$$

なお $0<\beta\leq 1$

2番目はミシガン大学のスーツ氏及び小泉氏共著の「玉葱取引の動態」というのでスーツ氏が報告した。小泉進氏の姿はみえなかつた。氏は，(1) 玉葱生産量（俵），(2) 庭先価格，(3) 未収穫玉葱量（俵）をあらわす3つの方程式を作り，これを結合して，いわゆる動態方程式を立て，この方程式による計算値と実際値とを対照したグラフを示した。そして，これが南テキサスの事情によくあうことを強調した。

第3の報告はイリノイ大学のラッド氏による「計測における誤差の影響」というので氏の学位論文の要旨である。氏は random sampling に関しいくつかの model を作り，各場合の誤差を詳細に計算したもので，理論上，実際上，有益な研究のように思われる。

予定討論者として，アイオワ州立大学のティントナー教授がたち，まえ二つの報告に対し，類似の研究を参考のため指摘し，後者に関しては，自分がオックスフォードにいた時分，同じことをやろうと思つたが，当時は計算器がなくて果し得なかつたと述べ，ただ経済の実際として正規分布をノーマルなものであるとの assumption として誤差を計算することが，正しいかどうかは問題である。例えば，所得分布など実際は正規分布になつてないと。

また，農務省のキング氏は，2番目の報告に対し，interregional な influence を考慮しなくてよいのか，と疑問を提出していた。

私にいわせると，動態方程式は過去の time series によつた history の regression で，将来の計測に Valid だという保証はない。グラフをみても，実際値と計算値とは随分ひらいている。

【資料Ⅰ】

十勝地域の産業構造

—その現状と将来の発展性—

第3篇　甜菜及び甜菜糖の市場並に生産構造

十勝總合開發促進期成會
(30年1月)

十勝総合開発50年計画書を策定するために，とくに十勝の産業特に工業を如何に発展させるかという産業計画に対する調査を行つた。

本編はその第3篇として甜菜及び甜菜糖の市場並に生産構造に関する報告である。

（筆者　佐々木一郎）

第4篇　十勝豆類の生産と流通機構

十勝總合開發促進期成會
(30年1月)

第3篇と同様に「十勝地域産業構造の分析と将来の発展性に関する調査」の一環として調査研究を行つたのである。
すなわち十勝豆類の生産と流通機構に関するものである。

（筆者　村岡秀夫）

臨時農業基本調査準備資料　No. 4

北海道の経営規模決定に関する参考統計資料

農林省統計調査部農林統計課
(30年2月)

第1部　支庁別にみた経営耕地と経営農用地および専兼業標準的階層の算出
第2部　支庁別にみた土地所有関係（湯沢氏「北海道農業論序説」より）
第3部　支庁別，経営農用地広狭別，農家の概況